

■外観デザインコンセプト

外観デザインについても建物全体コンセプトを継承し「織る」をコンセプトに計画します。

外観デザインの3つのウィーブ（織る）

- ①歴史と伝統のある街並みの景観を織り込む
- ②長浜の雄大な自然環境を織り込む
- ③訪れる人々の活動を織り込む

①歴史と伝統のある街並みの景観を織り込む

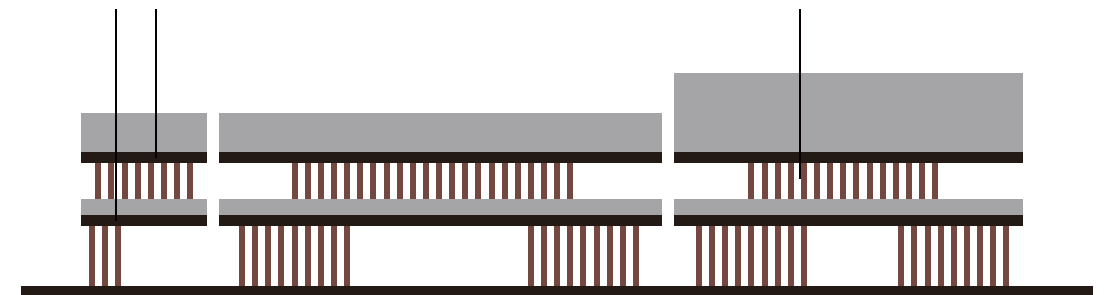
町家のように大きさや高さの異なる建物に統一したイメージを生み出す街並みの景観に倣い、「軒の高さの統一」や「共通のデザインコード」を用いることで、2つの用途の建物に一体感を生み出す工夫をします。



軒と格子によって一体感のある長浜の街並み

建物の大きさ、高さが違って、軒の高さが揃う

共通のデザインコード（格子）



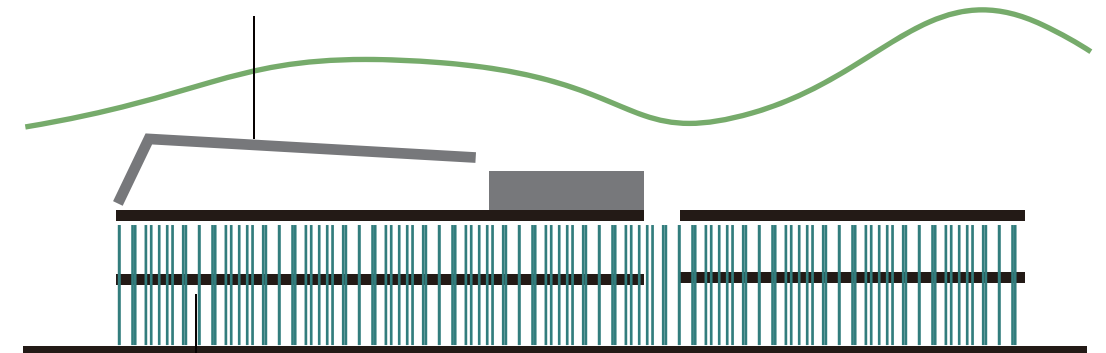
②長浜の雄大な自然環境を織り込む

琵琶湖のさざ波と伊吹山系の山並みを機能と併せてデザイン要素として建物に取り込みます。人の往来や活動が繰り返り続いていくイメージをもつ「琵琶湖のさざ波」は、交流や活動の中心となる1,2階部分のデザインに用います。「伊吹山系の山並み」は屋根のデザインに用います。



デザインに取り込む琵琶湖のさざ波と伊吹山

伊吹山系の山並みに呼応する屋根形状



さざなみパターン

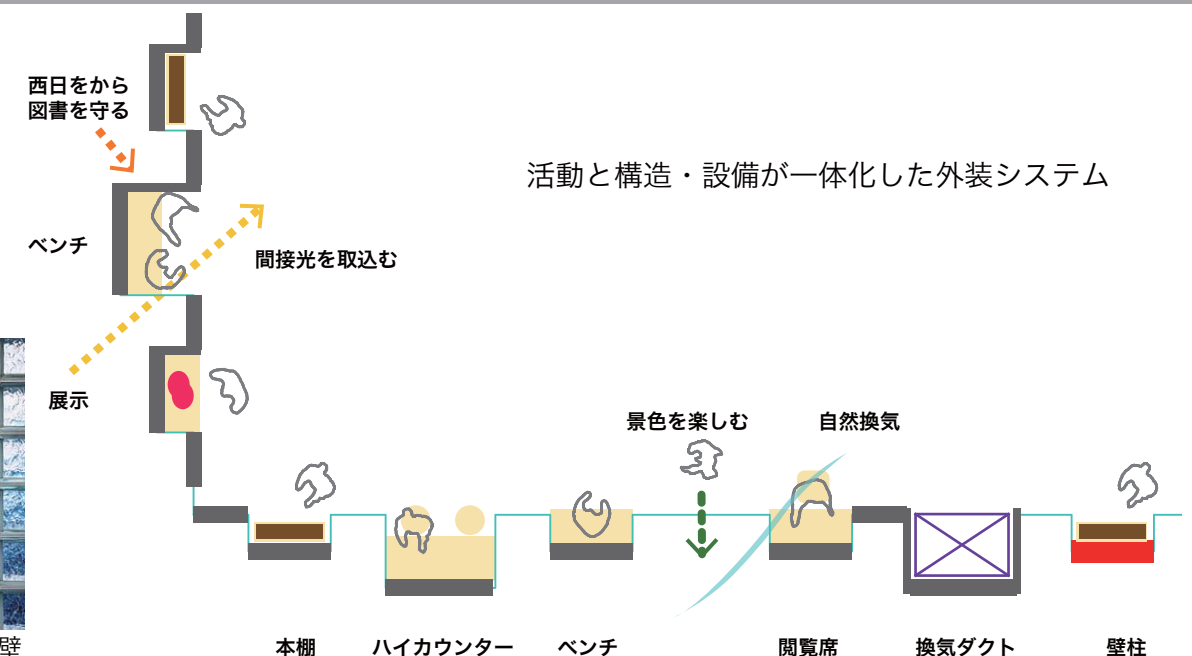
人の往来や活動が繰り返り続いていくイメージ
→共通のデザインコード

③訪れる人々の活動を織り込む

1,2階部分は湖面のさざ波のように立体的に揺らぐ外壁とすることで「内」と「外」、「光」と「影」、「風」や「視線」がボーダレスに交わり、多様な居場所が交錯した外観を創ります。また、凹凸により直射日光を遮り、人や図書にやさしい施設とします。凹凸のある外壁には、浜縮緬を連想させる質感のあるコンクリート壁や地元産業であるガラスブロックを用います。



浜縮緬をイメージしたPC版やガラスブロックで構成する外壁



活動と構造・設備が一体化した外装システム

■立面計画

- 1) 軒を揃え産業支援棟と一体感のある外観
- 2) 伊吹山系や琵琶湖のさざ波をイメージしたフォルム。
- 3) 居場所をつくる多様な外壁形状。

